

白藍塾オリジナル

2020入試小論文分析&解答のヒント

2020年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・環境情報学部

今年度の課題は、通常の課題文4つを読んで2つの設問に答えるというシンプルなもの、変則的な出題が続いた近年の傾向からすれば取り組みやすいと感じられるはずだ。ただし、問題の内容自体はかなり歯ごたえがある。

問1は、4つの資料がそれぞれ論じている「人間性」がどのようなものをわかりやすく表現するというもの。

各資料が「人間性」をどう捉えているか、「人（人間）」「環境」「情報」という言葉を使って要点だけまとめると、次のようになる。

資料1は、人間の進化の観点から、人が五感によってではなく、情報伝達の道具としての言葉によって、世界＝環境を理解するようになった点を重視している。

資料2は、アンドロイド演劇を例にとり、「『心』とは内的なメカニズムなどではない。環境に合わせて情報のやりとりなどの複雑な振る舞いができるようになると、見る者が勝手に『人間らしさ』を感じとってくれるにすぎない」と述べている。これは、言い換えれば、「人間性」が他者との関係性において成り立つものだということでもあるだろう。

資料3は、人間の意識にのぼっている事柄は、実際に脳内で起こっていることのほんの一部でしかなく、人間が環境に応じて人間らしく振る舞えるのは、そうした無意識の情報ネットワークの結果にすぎないことが示されている。

資料4が述べているのは、人間は記号（情報）としてのモノを消費することで自分のイメージを作り上げるが、そのイメージのモデル自体も時代環境によって変わる、といったことだろう。

4つの資料はいずれも読みやすいが、「人」「環境」「情報」という言葉がキーワードとして使われているわけではないので、それらを使って要点をまとめるには、多少のこじつけが必要だ。また、「図や記号などを用いても構わない」とあるが、あまり考えすぎる必要はない。板書をノートにまとめるときと同じ要領で、各資料のポイントをいくつか列挙した上で、矢印や囲いなどを使ってそれらに関連づけるだけで十分だろう。

問2では、「これからの『人間性』を論じるとともに、未来社会をよく生きるためのあなたの考えを

述べ」ることが求められている。4つの資料を踏まえて書くかどうかは書き手に任されているが、受験生が自分で考えても、「精神的な価値を重視して、豊かな人間性を取り戻すべき」といった精神論・道徳論に陥ってしまう危険がある。そのため、やはり資料のどれかを踏まえて考えるほうが無難だろう。とはいえ、「人間性」という抽象的なテーマだけに、資料をどう生かして書けばよいのか、かなり難しい問題だ。

どの資料に注目するかで、もちろん論点も違ってくる。例えば、資料2を読んで、「AIは心を持つことができるか」といった議論を思い出す人も多いだろう。そこで、「AIが高度に発達すれば、人間性を感じさせるものになるはずだ。そうすると、人間性は人間に特有のものではなくなるかもしれない。AIと人間が共存して活動していくためには、そうした新しい人間性の捉え方が必要だ」などのように論じることができる。また、資料4を踏まえて、「情報化が進めば、情報そのものが消費の対象になり、人間はますます物語に左右されやすくなる。そうならないように、情報に左右されないものの見方を確立すべきだ」といった論じ方をすることも可能だろう。いずれにせよ、1000字とかなり長めの字数なので、具体例をしっかりと書く必要がある。

書き方はいくつか考えられるが、「これからの人間性」と「未来社会をよく生きるためのあなたの考え」を第1部でずばり答えた上で、第2部と第3部でそれぞれの内容をくわしく説明する形にすると、まとまりやすいだろう。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>